

<よくあるお問い合わせ>

Q.藤枝市節薬運動とは何ですか？

A.藤枝市では、藤枝市、藤枝市立総合病院、志太医師会、藤枝薬剤師会、藤枝市介護支援研究会、藤枝市訪問看護ステーションネットワーク会議と連携し自宅に残っている残薬を薬局に持参していただくことで、再利用でき医療費の節約・削減、残薬の誤飲や不適切服薬による副作用防止を目的としています。

Q.藤枝市節薬運動の目的は？

A.重要な問題は、自宅に大量の残薬があるために高齢者が「どの薬を飲んだらよいかわからなかったり」、「飲み合わせが悪くて体調を壊したり」、「薬を飲まなかったために症状が改善されず、医師がさらに薬の処方を増やす」といった悪循環に陥っているケースを防ぎます。

Q.薬局に持って行ったお薬はどうするの？

A.持参されたお薬に関しましてはその患者様自身に使用させていただきます。
絶対に他の患者様に使用することはありません。

Q.利用できなかったお薬に関しては返金してくれるの？

A.残念ながら、それはできません。一度調剤したお薬に関して、返金はできないことになっています。

Q.残薬を持ち込んで利用するってことは薬局だけが儲かるんじゃないの？

A.残薬を利用させていただいた場合には、そのお薬に関しては1錠単位まできっちり計算して、処方量から差し引く事で患者様の負担を軽くします。

Q.期限の切れた薬等古いお薬の処分に関しては費用がかかるの？

A.再利用できないお薬に関しては、無償で薬局で処分をさせていただきます。ただし、麻薬など一部の薬は調剤した薬局でのみしか受け付けられない場合があります。基本は調剤してもらった薬局に持ち込んでください。

Q.薬局に持ち込む袋は指定のものですか？

A.ブラウンバッグ、スーパーのビニール袋、エコバック、薬の薬袋などどんな袋でも大丈夫です。

Q.他の薬局でもらったお薬を持って行ってもいいの？

A.いくつかの薬局でもらっていて、どこの薬局かわからない場合は、まずはご自身のかかりつけ薬局（一番気軽に相談できる薬局）へご相談ください。そこで、対応について相談しましょう。

Q.残薬を先生に言うと怒りませんか？

A.医師から処方された薬を服用していなかったことを伝えるのを嫌がる患者様もいらっしゃいますが、何も言わないまま症状が悪化した場合、その症状を改善するために、さらに薬を追加されてしまうこともあります。それによって服用する薬がどんどん増えて、かえって体調が悪化したり、副作用が生じたりする場合があります。まずはきちんと伝えて、日数調整や用法の確認をしてもらいましょう。薬剤師が間に入ることで、問題が解決することもあります。

Q.お薬に関して困っていることを医師や薬剤師に伝え忘れてしまう

A.まずは、お薬手帳を活用してみましょう。ご本人は勿論、ご家族、介護関係者等どなたが書き込んで大丈夫です。医療関係者は必ず内容を確認します。そのため、疑問に思ったことや体調で困っていることなどありましたら、お薬手帳に記載をすることから始めてみたらどうでしょうか？

Q.なぜ残薬が問題なの？

A.医療費の負担はもちろんありますが、今は服用しなくてもいい薬を間違えて飲んでしまい体調を悪化させてしまう例や、1回に2回分以上お薬を飲んでしまい体調を悪化させてしまう例などがあります。また、実はお薬をしっかりと飲んでいないため、病状が悪化してしまう例などがあります。残薬があるということは、お薬を正しく飲むことができていない可能性があるため、現在問題となっています。

Q.お薬の有効期限はありますか？

A.飲み薬にも貼り薬、目薬にもどのようなお薬にも有効期限はあります。保存している場所の温度や湿度、直射日光によりますが、錠剤・粉薬：半年～1年、シロップ剤：1～2週間程度、点眼薬：1週間～1ヶ月が目安になります。目薬や貼り薬は、容器などに使用期限が書いてあります。ただし、これは未開封の状態になるため、開封後は上位が目安になります。古い薬や期限がわからない薬はもったいないですが、捨てるのが一番です。（図1参照）

「有効期限」の記載は、未開封の場合のみ!

- 錠剤: 色や匂いの変化
ヒビ・割れやすい
- 顆粒・粉薬: 吸湿

開封後の目安

錠剤・粉薬: 半年～1年
シロップ剤: 1～2週間程度
点眼薬: 1週間～1ヶ月



開封したら日付を書いておく!!

古くなったクスリは捨てるのが一番!

Q. 藤枝市節薬運動で医療費の無駄が防げますか?

A. 日本薬剤師会によると在宅の75歳以上の高齢者だけでも残薬は年間およそ475億円分になると推計されています。これは高齢者だけの数字で実際にはさらに多くの残薬があると推察されます。

残薬で医療費が無駄に!

後期高齢者が飲み残している薬剤費(年間)

		出典
① 75歳以上患者の年間薬剤費		国民生活医療行動別調査
② 75歳以上患者の月間薬剤費		国民生活医療行動別調査
③ 飲み忘れの可能性あるが訪問薬剤師による指導が可能な患者割合		報告5頁(患者調査)
④ 飲み忘れの可能性あるが訪問薬剤師による指導が不可能な患者割合(病院)	7.3%	報告6頁(患者調査)
⑤ ③の薬剤費 [=①×③]	1,860,255千円	-
⑥ ④の薬剤費 [=②×④]	3,011,400千円	-
⑦ 飲み忘れ等の薬剤費の占める割合(薬局)	32.1%	本報告11頁(患者調査)
⑧ 飲み忘れ等の薬剤費の占める割合(病院)	15.6%	本報告11頁(患者調査)
⑨ 飲み残し薬剤費 [= (⑤×⑦+⑥×⑧) ×12ヵ月]	47,471,044千円	※年間薬剤費の粗推計値

475億円

Q.藤枝市節薬運動で薬局はどういう対応をしてくれるのですか？

A.薬局では、まずは残薬の内容を確認します。何のお薬か、いつから飲んでいるお薬なのか、今も継続して服用している薬なのか、何のお薬が何錠残っているのか、まずはお調べします。その際に、『4 長く服用しているのでたまたま貯まってしまったのか』、『服用回数が多いので忘れてしまうのか』、『体調が良くなってきて服用しなかったのか』、『副作用が出て服用をやめてしまったのか』等の残薬が生じてしまった原因を確認します。

2 残薬の原因は？

残薬で困っている患者さんの声



次に、余っているお薬で、今も継続しているお薬ならば、利用して、患者様の負担を軽くします。その際、残薬が生じた原因によって、飲みやすい工夫を考えます。例えば、お薬の数が多くて飲み忘れてしまう場合は、1回分ずつまとめる工夫をします。いつ飲むかわからないときは、飲むタイミングがわかるように工夫をします。錠剤が大きくて飲み込みにくい場合は、飲み込みやすい錠剤に変えたり、粉薬に変えたりします。

また、1日3回の薬を2回しか服用していなくても効果が出ていると判断されれば、服用回数を変更する可能性もあります。

3 「飲めない薬」を「飲める薬」へ

患者さん毎に合わせた「オーダーメイドの一包化」

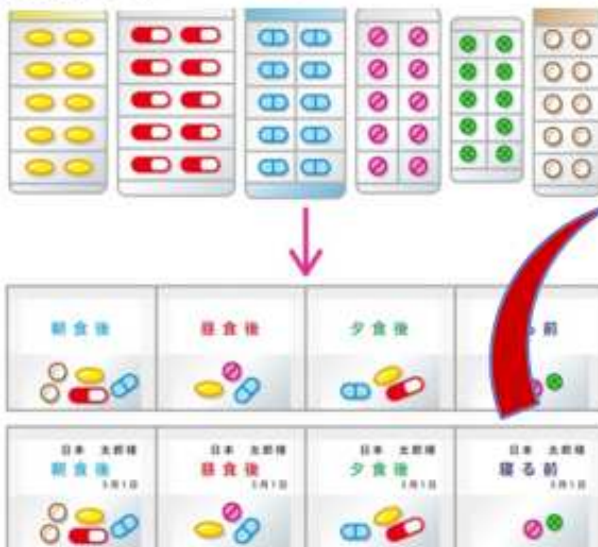
- 患者氏名、部屋番号(施設入所者)
- 日付・曜日(服用日 or 調剤日)、用法
- 色分け、用法シール、点字シールなど



3 「飲めない薬」を「飲める薬」へ

服薬支援策

- 薬の整理 (一包化、カレンダー、服薬支援ロボット)
- 処方提案 (生活スタイルに合った薬の提案)



そして、活用できるお薬の数や飲み方、お薬の飲み方などで困っていることの解決方法が見つかりましたら、処方してくれている医師に相談をします。

3 「飲めない薬」を「飲める薬」へ

より適切な服用形態の選択(処方提案)

